

5 授業実践【1年生】

1 単元名	「みんな なかよし」	総時間 25時間
小単元	「がっこうにくるみち かえるみち」	9時間

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の内容の(1)(4)(5)(8)に該当する。

- (1) 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。
- (4) 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする。
- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。
- (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

これまでに児童は、「ともだちとなかよし」の学習で、学級の友達や担任との関わりを楽しんだり、新型コロナウイルスの影響で縮小したが、「1年生を迎える会」で6年生に温かく迎えられる活動を通して、学校全体に意識を広げたりしてきた。また、「がっこうとなかよし」では、学校を探検し、見つけたことや興味をもったことを絵や簡単な文で表したり、友達に伝えたりして、表現する活動も少しずつできるようになってきた。

本単元では、通学路を見つめる活動をして通学路の様子に関心を持ち、自然のよさや自分たちの安全を守ってくれる人に気付くことができるとともに、安全に気を付けて登下校ができたり、ルールを守って公園などの公共施設・公共物を利用することができたりすることをねらいとしている。本年度は、休校の期間があったため、経験不足な面はあるが、集団下校などを通して地区や方面別に通学路を通ることに少しずつ慣れてきている。本校は学区が広く、住宅地・店舗・交通量が多い道路・緑道・公園などがあるため、児童は様々なものを見付けることができるだろう。登下校や学校の周りの探検の中で出会う自然物に触れさせるとともに、自分たちを温かく見守ってくれている人々、探検の延長線上にある公園での活動などから、安全に関わることへと目を向けさせたい。単なる意識の芽生えで終わるのではなく、実際に安全に通学路を歩けるようになってきたり、きまりやルールを守って遊具などを使えるようになってきたりするまで気付きの質を高めていくことが大切だと考える。

(2) 児童の実態

実態調査の結果から、学級全ての児童が生活科の学習が好きと答えている。生活科の学習で楽しいと

思うときはどんなときかという質問では、「観察」「探検」「アサガオの世話」「季節のものを使って作ること」と答えている児童が多い。「自分ができるようになったことを見付けること」と答えている児童も多く、1年生の1学期ではあるが、自分の成長に喜びを感じていることがわかる。また、何かを見付けたり、気付いたりするためにはどんなことをすればいいかという質問では、「よく見ること」が大切と答えている。生活科の学習でどんなことをするのが好きかでは、ワークシートにかいたり、友達に伝えたりすることを好んでいる児童が多く、友達と一緒に活動したり、伝え合ったりすることを楽しんで学習に取り組んでいることがわかる。

(3) 指導観

本単元では、児童にとって実生活と関わりが強い通学路を取り上げ、安全な登下校ができるようにすることをねらいとしている。

導入では、自分の通学路で見かけるものや人、自然などを思い出して絵カードに表し、友達に伝える活動を取り入れる。学区の地図に自分がかいた絵カードを貼って絵地図を完成させ、友達の通学路にあるものと自分の通学路との違いにも目を向けさせ、通学路への関心をもたせる。次に、安全面に気を付けて学校の周りを歩いて探検する活動をする。動植物などの自然や建物だけでなく、安全に関するものにも目を向けさせながら歩くようにする。探検で見付けたものを絵カードにかく際には、写真を提示し、想起しやすくする。また、水色（もの・自然・人）と黄色（安全）に色分けしたカードを使い、グループごとに絵地図を作る。発表では、自分たちの絵地図との違いに気付くようにさせる。単元のまとめでは、公園までの行き方や安全、公園での約束を確認して、友達と一緒に楽しく活動する。広い公園で遊ぶことを通して、マナーや順番を守ったり、公園は公共の施設であることに気付いたりすることができるようにしたい。単元を通してワークシートを活用し、活動を振り返ったり、できるようになったことや考え、願いなどを書いたりすることができるようにしたい。

3 単元の目標

- ・通学路の様子や安全な登下校が分かり、自分との関わりに気付くことができる。
(知識及び技能の基礎)
- ・安全な登下校などについて、見付けたり、考えたり、振り返ったりして、自分なりの思いや気持ちを表現することができる。
(思考力、判断力、表現力等の基礎)
- ・通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心を持ち、安全な登下校をしようとする。
(学びに向かう力、人間性等)
- ・公園での遊びに関心を持ち、思いや願いをもって人や自然とかかわって遊ぼうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

4 指導計画（9時間扱い）

過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準（評価の観点）【評価方法】	備考
見出す	1	○通学路で見付けたものやひとを伝える。	・通学路で見付けたものを友達に進んで話そうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・観察】	教室

	2	○通学路で見つけたものをカードにかき、絵地図に貼る。	・通学路で見つけたことをカードに表現している。 (思考・判断・表現)【カード・発言】	
調べる	3	○学校の周りを歩いて、通学路の様子をつかむ。	・交通ルールやマナーに気を付けて歩こうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【観察】	学区
	4	○探検して見つけたものや出会った人を絵や言葉でかき、かいたことをペアで伝え合う。	・学校周辺の様子について進んで伝えようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・観察】 ・気付いたことや発見したことをカードに表現している。 (思考・判断・表現)【カード】	
	5 (5/9) 本時	○探検してかいたカードを絵地図に貼り、発表の準備をする。	・学校の周りについて見つけたことを、カードをもとにグループで話し合い、絵地図にまとめている。 (思考・判断・表現)【発言・観察】	
	6	○探検して見つけたものをグループごとに発表し、安全な登下校や見守ってくれる人やものについてまとめる。	・友達の発表をしっかりと聞いて、自分が見つけたものと違いを見つけようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・観察】 ・通学路では、様々な人やものに守られていることに気付いている。 (知識・技能)【振り返りカード】	
深める	7	○公園までの行き方や安全、公園での約束を確認する。	・歩き方や公園での過ごし方について、友達に伝えようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・観察】	教室
	8	○遊具の使い方や順番を守って楽しく公園で遊ぶ。	・公園遊びに関心をもち、進んで人や自然とかかわって遊ぼうとしている。(主体的に学習に取り組む態度) 【観察】	赤坂公園

			<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気を付けながら、公園までの道のりを歩いたり、遊具で遊んだりしている。 <p>(思考・判断・表現)【観察】</p>	
まとめあげる	9	○学校の周りを探検してわかったことや考えたことを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校での安全や公園での遊び方について、気付いている。 <p>(知識・技能)【発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校を振り返り、自分ができるようになったことや成長したことに気付いている。 <p>(知識・技能)【振り返りカード】</p>	教室

5 本時の指導 (5/9)

(1) 目標

- ・学校の周りについて見付けたことを、カードをもとにグループで話し合い、絵地図にまとめることができる。
- (思考力, 判断力, 表現力等の基礎)

(2) 仮説との関わり

<仮説1>

対象との関わらせ方を工夫すれば、学習や活動の充実感を味わい、自ら学びに向かう児童が育つだろう。

- ・普段、自分が通っている通学路の様子と学校の周りの様子を比べたり、写真を提示したりすることで、自分の考えを表現しやすくする。
- ・学校の近くの公園までの道のりの様子や公園での様子を発表し合う活動を通して、友達の考えのよさに気付いたり自分の考えを深めたりして、さらにもっと大きな公園への興味・関心を高めるようにする。

<仮説2>

学びをつなげ、伝え合う場や振り返る場を工夫すれば、気付きの質が高まり、自分の思いや願いを表現できる児童が育つだろう。

- ・信号機や標識など安全に関するものを写真で提示したり、探検を振り返りながらグループで絵地図を仕上げたりする中で、自分の見付けたものを伝えたいという気持ちを高めるようにする。
- ・話し合いの約束を提示したり、話し合いの進め方シートをリーダーに渡しスムーズに進行できるようにしたりすることにより、話し合い活動を活発に行えるようにする。
- ・他のグループの絵地図の発表を聞き、自分たちが見付けたものとの違いに目を向けることにより、気付きの質を高め、次時に発表したいという思いをつなげるようにする。

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価 ☆仮説に関する手立て	資料
5	1 前時を振り返る。 ・学校の周りには、たくさん道路がある。 ・安全のものがある。 ・公園の中にいろいろなものがある。	☆学校の周りや近くの公園の様子の写真を見せ、想起しやすくする。 (仮説1)	写真
3	2 学習課題をつかむ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> がっこうのまわりの「すてき」を見つけよう。 </div>	
10	3 グループで自分の考えを発表し合う。 ・中学校 ・お店 ・信号機 ・横断歩道 ・看板 ・交通標識 ・ミラー ・子ども110番 ・公園の遊具 ・木 ・植物 ・虫	・発表するとき、話を聞くときの約束を確認させる。 ・「もの・しぜん・ひと」(水色)「あんぜん」(黄色)に分けて発表できるようにする。 ・安全にかかわるものについても考えられるようにする。 ・支援を要する児童には、友達が発表したことと同じものはないか考えさせたり、写真を使わせたりする。	絵地図 カード 探検で使 した地図 話し合い の進め方 シート
15	4 カードを絵地図に貼る。 ・グループで学校の周りの絵地図を仕上げる。	・探検で使った絵地図を見ながら、自分のカードをどの場所に貼ったらよいか考えるようにする。 ☆自分の通学路のカードを絵地図にまとめたことを想起させ、グループの友達と協力し合い、絵地図にまとめるようにする。(仮説1) ☆グループで絵地図を仕上げる中で、自分の見付けたものを友達に伝えたいという気持ちを高めるようにする。(仮説2)	

		<p>○学校の周りで見つけたことを，カードをもとにグループで話し合い，絵地図にまとめている。</p> <p>(思考・判断・表現)【話し合い・観察】</p> <p>・発表を聞いたら，感想を伝えるようにする。</p> <p>☆代表のグループの絵地図の発表を聞き，自分たちが見つけたものとの違いに目を向けることにより，気付きの質を高め，次時に発表したいという思いをつなげる。(仮説2)</p> <p>・自分が見付けていちばん知らせたいことや，友達の発表を聞いて気付いたことをワークシートに書くようにする。</p>	
7	<p>5 絵地図を見ながら，発表の練習をする。</p> <p>・代表で1つのグループが発表する。</p>		
5	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>・ワークシートに記入する。</p>	<p>・次時は，全部のグループが発表することを伝える。</p> <p>・みんなでもっと楽しく遊べる公園はないか，考えるようにさせる。</p>	ワークシート

(4) 板書計画

がっこうへいくみち かえるみち

はなしあいのやくそく

④ がっこうのまわりの「すてき」をみつけよう。

学区の絵地図

がっこうのまわりにあったもの

写真	写真
写真	写真
写真	写真

代表のグループの絵地図

5 授業実践【2年生】

- 1 単元名 「春 はっけん」 総時間 22時間
小単元 「春の 町で はっけん」 12時間

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の(3)(8)に該当する。

- (3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。
- (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

これまでに児童は、1学年において学区探検を行い、安全に気を付けて歩くとともに、自分たちの安全を守ってくれる施設や人がいることを学んできた。さらに、近隣にある公園まで歩き、公園の遊具で友達と仲良く遊んだり、自然に触れたりしてきた。また、公園を利用している人の存在に気付き、公共施設の使い方やルールを守って大切に使うことを経験してきている。

本単元では、関わる対象を地域に広げ、そこで生活したり働いたりしている人々について考え、自分たちの生活が地域とどのように関わっているか理解を深めることを通して、多様な人々との関わり方を学ぶことをねらいとしている。関わる対象を家庭や学校から地域へと広げることで、自分たちが生活している場所には、愛着をもてる場所やすてきな人が多くいることに気付くことができると考えた。また、地域の人や働いている人との交流を通して、相手との適切な関わり方について理解し、身に付けることができる。自分が住んでいる地域に生活している人や働いている人々を理解することは、自分たちの生活と関係し、自分たちの生活を豊かにしていることに気付くことにもつながる。

さらに、地域にある様々な場所や店、地域の人々との接する活動を通して分かったことや気付いたことについて、伝える相手や伝え方を決めて交流することで、自分の思いや相手に伝えることや、相手が伝えたいことを理解できることにつながる。また、伝え合う活動を繰り返し行うことで、伝え合うことの楽しさや心地よさ、さらに相手や場面に合う伝え方について理解し、相手と交流することの良さについて実感することができる。1学年での学習を生かして、2学年では伝えたいことを相手に伝えるだけでなく、互いの伝え合いを通して関わる楽しさを実感できるようにすることをねらいとしている。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、生活科の学習に興味をもって取り組む児童が多く、「生活科の学習が好き、どちらかというと好き」と回答している児童は91%であった。友達と活動することや秘密を見付けることにおいて、楽しさを見出し、好意的な回答が多かったのだと考えられる。一方で、自分の考えを友達に伝えることに対して、54%にとどまり、90%の児童が「恥ずかしい」「自分の秘密にしたい」と回答した。自分の考えを自発的に発表しようとする児童は限られている。また、表現力が乏しく、自分の伝えたい

ことをうまくまとめられず、相手に伝えられない児童も多い。さらに、自分が見付けたことや考えたことなどを相手に伝える方法について、どんな方法があるのか理解している児童がわずか34%であった。そのため、伝える方法が分からないことや表現の乏しさが、相手に伝える際に苦手意識をもたせてしまっていることが考えられる。

児童は、明るく元気な児童が多いが、登下校中に自分から挨拶をしたり、来校した人に自分から挨拶をしたりすることができる児童が少ない。また、自分の気持ちが相手に伝わらずトラブルに発展することや、相手が伝えたいことを理解できずに、お互いの気持ちが伝わらないことがある。

(3) 指導観

本単元では、自分たちが生活している学区を探検し、生活している人や働いている人々と関わることで、地域の一員であることに気付き、自分たちの町にはすてきな場所や働いている人がたくさんいることが分かり、適切に関わることができるようにすることである。2学年では、学区探検の範囲をさらに広げ、通学路の春の町の様子に気付いたり、町で生活している人々に触れ合ったりする。さらに、1学年で学習したことを結びつけ、見付けた「もの」や「人」への対象を深め、施設や店で働く人々に関心をもたせられるようにすることで地域への愛着がわくようにしたい。

前学年の学習を踏まえて、自分の通学路の様子を道カードに表すことによって、自分との関わりについて気付かせる。さらに、道カードを見せ合い、方角を意識して地図に貼ることで友達の通学路の様子との違いに興味をもたせ、自分の目で確かめてみたいという意欲につなげる。

これまでの学習においても、安全に気を付けて通学路を歩くことや横断歩道での渡り方などを学習している。しかし、学区が広いので、2方向に分けて探検を行う。一方は、緑道が整備されている加良部方面である。緑道を通っていくため、横断歩道を渡らなくても探検先へたどり着くことができる。もう一方の江弁須方面は、大通りで車の交通量も多く、交差点での横断が数回必要となる。そのため、探検に行く際の安全についても一度確認をし、安全に気を付けて探検するように指導する。さらに、探検の際は、施設や店の存在に気付くだけでなく、そこで働いている人に焦点を当て、地域で活躍している人々に気付くことができるようにする。また、春の探検が秋の探検、グループ探検につながるものであるため、安全面や出会った人との挨拶など、しっかりと身に付けさせたい。

探検後は、探検で見付けたものを友達に伝え合う活動を充実させることで、自分が見付けたものと友達が見付けたものを比べ、気付きの質を高めることにつながる。その際、児童が見つけたものを付箋に書き、グループごとに学区の地図に貼り、見付けたものについて「店」「建物」「働いている人」と視点を明確にして、発表させたり、発表を聞いたりさせることで、探検の内容を共有し気付きを深めていく。

3 単元の目標

- ・通学路や学区を探検し、町の中に春を見付けたり、町で生活している人や働いている人に気付いたりすることができる。
(知識及び技能の基礎)
- ・学区を探検して、発見したことや気が付いたことについて表現することができる。
(思考力、判断力、表現力等の基礎)
- ・春の町で見付けた自然や地域で生活したり働いたりしている人々に関心や親しみを持ち、次の町探検につなげようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

4 指導計画（11時間扱い）

過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準（評価の観点）【評価方法】	備考
見出す	1	○通学路で見つけた春を紹介する。	・通学路で見つけたものを友達に伝えている。（思考・判断・表現）【発言】	教室
	2 3	○通学路について道カードに描き、紹介し合う。	・自分の通学路を思い出し、通学路の様子を道カードに表している。 （思考・判断・表現）【カード】	
	4	○友達の道カードの紹介を聞いて、行ってみたい場所や会いたい人について話し合う。	・自分の通学路と比べながら友達の発表を聞き、行ってみたい場所や会いたい人を考えて表現している。 （思考・判断・表現）【発言】	
	5	○探検の準備について話し合う。	・交通ルールや探検のマナーに気を付け、安全に探検にすることに気付いている。（知識・技能）【発言】【観察】	
調べる	6 7	○探検（加良部方面、江弁須方面）に出かける。	・挨拶をしたり、安全に気を付けて探検したりして、地域の人に関わっている。 （知識・技能）【観察】【ワークシート】	学区
	8	○探検で見つけたことや分かったことをカードに書く。	・気付いたことや、発見したことをワークシートに表現している。 （思考・判断・表現）【ワークシート】	
	9	○カードに書いたものを地図に貼ることができる。	・町には、たくさんの店があり、多くの人が働いていることに気付いている。 （知識・技能）【発言】	
深める	10 (10/ 11) 本時	○地図に貼った店や働いている人について友達に伝えることができる。	・探検で見つけたものの視点を明確にして相手に伝えている。 （思考・判断・表現）【発言】	教室
	11	○学区を探検して分かったことや考えたことを振り返る。	・もう一度確かめたい場所や、行ってみたい場所について発表しようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度） 【発言】【ワークシート】	
まとめあげる	11	○学区を探検して分かったことや考えたことを振り返る。	・もう一度確かめたい場所や、行ってみたい場所について発表しようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度） 【発言】【ワークシート】	教室

5 本時の指導 (10/11)

(1) 目標

- ・探検で見つけたものの視点を明確にして相手に伝えることができる。

(思考力, 判断力, 表現力等の基礎)

(2) 仮説との関わり

<仮説1>

対象との関わらせ方を工夫すれば, 学習や活動の充実感を味わい, 自ら学びに向かう児童が育つだろう。

- ・学区にある公共施設や店を探検したことを地図に表して提示することで, 自分の生活と関わっている施設や店を身近に感じ, 自分の生活している地域への興味・関心を高めるようにする。
- ・探検で見つけたものを「施設・店」「自然」「働いている人」に分けて付箋にかいて貼ることで, 探検した方面の違いや, 特徴に気付くようにする。

<仮説2>

学びをつなげ, 伝え合う場や振り返る場を工夫すれば, 気付きの質が高まり, 自分の思いや願いを表現できる児童が育つだろう。

- ・探検で見つけたものを「施設や店」「自然」「働いている人」と視点を分けて発表することで, 自分が伝えたい内容を相手に伝えられるようにする。
- ・相手に伝える視点を明確にして発表したり, 自分が見つけたものとの違いに目を向けさせながら聞いたりすることで, 気付きの質を高めるようにする。

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価 ☆仮説に関する手立て	資料
5	<p>1 前時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋を貼って, 地図を作った。 ・加良部方面は, 店が少なかった。 ・アベイルの店の前で, ごみ箱を掃除している店員さんがいた。 ・江弁須方面は, 車の通りが激しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけた店や働いている人について, 付箋に書き出し, 地図に張り付けたことを思い出させる。 ☆学区にある公共施設や店を探検し, 探検したことを地図に表して提示することで, 自分の生活と関わっている施設や店を身近に感じ, 自分の生活している地域への興味・関心を高めるようにする。 (仮説1) ☆探検で見つけたものを「施設・店」「働いている人」に分けて付箋にかいて貼るこ 	地図

5	2 学習課題をつかむ。	とで、探検した方面の違いや、特徴に気付くようにする。 (仮説1)
町たんけんで見つけた店やはたらいっている人を友だちにつたえよう。		
20	3 グループごとに発表する。 ・消防署では、消防車の下にもぐって点検している人がいたよ。 ・図書館の近くには、車を売っているお店があったよ。 ・車を売っているお店に、パソコンをしている人がいたよ。 ・江弁須方面には、ウエストというお店があったよ。 ・ヨークマートには、たくさんものが売っていたよ。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表するときや聞くときの約束について確認させる。 ・自分たちが見付けたものと友達が見付けたものの違いを聞き取るために、建物や働いていた人の様子を聞き逃さないようにする。 ・自分が伝えたいものに絞って、伝えるようにする。 ・声のものさしを使い、自分が見付けたものを堂々と伝えられるようにする。 ・加良部方面と江弁須方面で分けて、発表するようにさせる。 <p>○探検で見付けたものの視点を明確にして相手に伝えている。</p> <p style="text-align: center;">(思考・判断・表現)【観察】</p> <p>☆探検で見付けたものを「施設や店」「自然」「働いている人」と視点を分けて発表することで、自分が伝えたい内容を相手に伝えられるようにする。(仮説2)</p>
10	4 分かったことを発表する。 ・江弁須方面は、横断歩道がたくさんあって、大変だった。 ・加良部方面は、緑道で行くことができた。 ・江弁須方面は、加良部方面と比べてお店が多かったな。 ・公民館って、何をしている場所なのかな。 ・図書館には、本は何冊あるのかな。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を聞いて、自分の発見と違うところや分かったところを発表させる。 ・加良部方面と江弁須方面の違い(交通量や店の数など)について、気付いたことがないか考えさせる。 ・働いている人の様子で気になったことについて、意見を出すようにさせる。 <p>☆相手に伝える視点を明確にして発表したり、自分が見つけたものとの違いに目を向けさせながら聞いたりすることで、気付きの質を高めるようにする。(仮説2)</p>

5	5 次時の学習の見通しと意欲をもつ。	・学区を探検して分かったことや、探検を通してできるようになったことを振り返ることを伝える。
---	--------------------	---

(4) 板書計画

④ 町たんけんで見つけた店やはたらいしている人を友だちにつたえよう。

わかったこと

からべ方めん

- ・図書かん、公みんかん
- ・しょうぼうしょで、はたらいている人
- ・店が少ない

えべす方めん

- ・ウエスト
- ・そばや
- ・ヨークマートで、はたらいている人
- ・おうだん歩道が多い

地図

6 児童の変容

がっこうにくるみちかえるみち

① A児

1ねん くみ なまえ
はっぴょうをきいてわかったこと
がっこうのまわりには、まあくがあることがわかった。



しゅんたちをまもってくれるものについてかんがえたこと
とまれのまあくがみんなをまもってくれるのがわかった。

がっこうにくるみちかえるみち

② B児

1ねん くみ なまえ
はっぴょうをきいてわかったこと
みらあやとまれのまあくが「いっほい」ありました。



しゅんたちをまもってくれるものについてかんがえたこと
こども110番は「んやとまれやみらあが「みんなのため」にはたらくことが「あかりました」。

がっこうにくるみちかえるみち

③ C児

1ねん くみ なまえ
はっぴょうをきいてわかったこと
みんなの「はっぴょう」で「ごんなことはたいげばもらなきとおもたておしえてくれました。



しゅんたちをまもってくれるものについてかんがえたこと
とまれやんごうは「ごんにならないうちにある」とおしえました。

学区探検の学習を通して、A児は標識の多さに気が付き、標識がただそこに存在しているわけではなく、自分たちの安全を守っていることを理解することができた。

B児は、「とまれ」の標識だけでなく、こども110番の看板、ミラーなどへの存在にも気が付き、安全を守るための役割について、まとめることができた。

C児は、信号や標識があることによって、事故を防いでいることに気付くことができた。また、友達の発表を聞いて、今までの自分の行動を振り返り、安全を守っているものへの認識が変化したことがワークシートから読み取ることができる。ペアやグループでの伝え合う学習を通して、自分自身を振り返ることで気づきの質が高まり、自分の思いを表現する力が高まった。



町たんけん (からベコース)

2組 名前

① A児

からベコースをあるいて、しぜんや町ではたらいている人を見つけよう。

☆図書館の近くで見つけたしぜんやはたらいている人

・図書かみの着 (いんぐ) ・分厚いゴート (いんぐ)
・図書の前にある木 (いんぐ) ・紫とオレンジの花

☆ボンベルタの近くで見つけたしぜんやはたらいている人

・ソムを洗っている人 (いんぐ) ・バスをうっている人 (いんぐ)
・ゴミを拾っている人 (いんぐ) ・おかしがらをばらばらしている人 (いんぐ)

☆道のどちら側で見つけたしぜんや人はたらいている人

・あまがわがわがしている人 (いんぐ) ・せいのぬけがら (いんぐ)

☆たんけんできんがえたことやもっとしりたいこと

・たんけんできんがえたこと (いんぐ) ・たんけんできんがえたこと (いんぐ)
・たんけんできんがえたこと (いんぐ) ・たんけんできんがえたこと (いんぐ)
・たんけんできんがえたこと (いんぐ) ・たんけんできんがえたこと (いんぐ)

☆ふりがえろう

・出会った人に自分から先にあいさつをした。 (いんぐ) (いんぐ) (いんぐ)
・あんげんに気をつけることができた。 (いんぐ) (いんぐ) (いんぐ)
(道のあるき方やおうだんぼ道のわり方)
・しぜんや町ではたらいている人を見つけることができた。 (いんぐ) (いんぐ) (いんぐ)



町たんけん (えべすコース)

2組 名前

② B児

えべすコースをあるいて、しぜんや町ではたらいている人を見つけよう。

☆ちばガスの近くで見つけたしぜんやはたらいている人

・マック (いんぐ) ・ケオ (いんぐ)
・ケンタッキー (いんぐ) ・ナギサ (いんぐ)

☆ヨークマートの近くで見つけたしぜんやはたらいている人

・かいものせいの人 (いんぐ) ・かきまき (いんぐ)
・かきまき (いんぐ) ・木 (いんぐ)

☆道のどちら側で見つけたしぜんや人はたらいている人

・コココーラ (いんぐ) ・かきまき (いんぐ)

☆たんけんできんがえたことやもっとしりたいこと

・たんけんできんがえたこと (いんぐ) ・たんけんできんがえたこと (いんぐ)
・たんけんできんがえたこと (いんぐ) ・たんけんできんがえたこと (いんぐ)
・たんけんできんがえたこと (いんぐ) ・たんけんできんがえたこと (いんぐ)

☆ふりがえろう

・出会った人に自分から先にあいさつをした。 (いんぐ) (いんぐ) (いんぐ)
・あんげんに気をつけることができた。 (いんぐ) (いんぐ) (いんぐ)
(道のあるき方やおうだんぼ道のわり方)
・しぜんや町ではたらいている人を見つけることができた。 (いんぐ) (いんぐ) (いんぐ)



町たんけん (えべすコース)

2組 名前

③ C児

えべすコースをあるいて、しぜんや町ではたらいている人を見つけよう。

☆ちばガスの近くで見つけたしぜんやはたらいている人

・こうしゅう (いんぐ) ・せいのぬけがら (いんぐ)
・ピンクの花 (いんぐ) ・白い花 (いんぐ)

☆ヨークマートの近くで見つけたしぜんやはたらいている人

・くものす (いんぐ) ・コケ (いんぐ)
・ヨークマートではたらいている人 (いんぐ) ・コココーラではたらいている人 (いんぐ)

☆道のどちら側で見つけたしぜんや人はたらいている人

・アサカ (いんぐ) ・ハチ (いんぐ)

☆たんけんできんがえたことやもっとしりたいこと

・たんけんできんがえたこと (いんぐ) ・たんけんできんがえたこと (いんぐ)
・たんけんできんがえたこと (いんぐ) ・たんけんできんがえたこと (いんぐ)
・たんけんできんがえたこと (いんぐ) ・たんけんできんがえたこと (いんぐ)

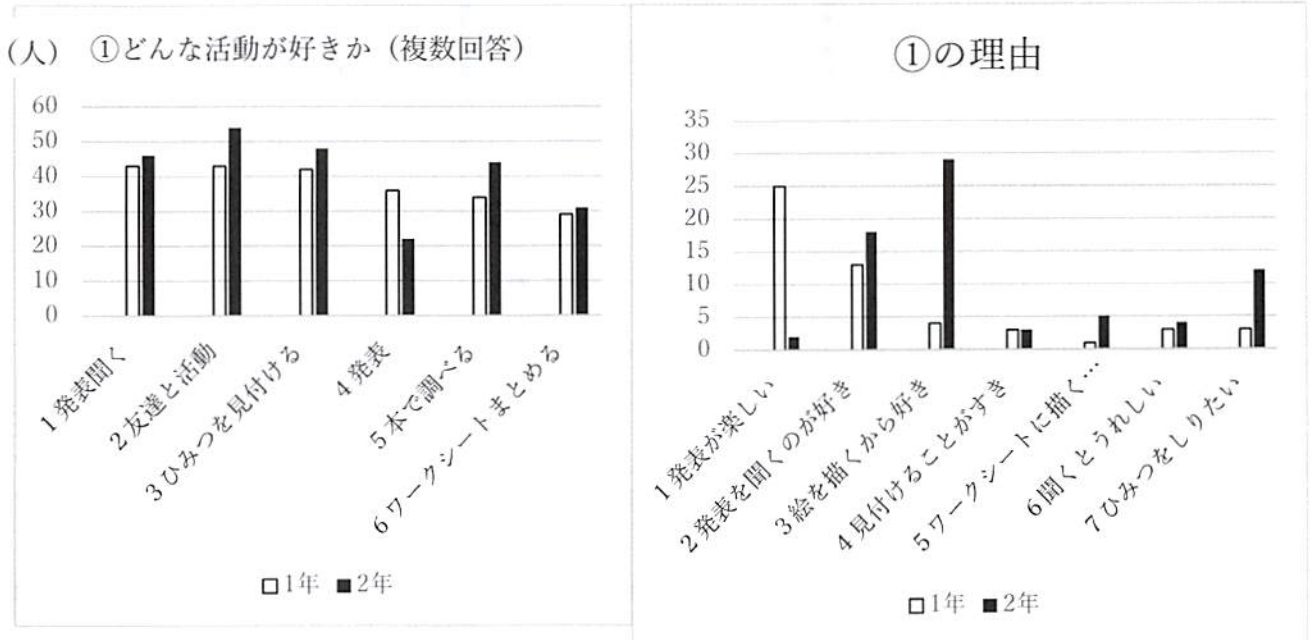
☆ふりがえろう

・出会った人に自分から先にあいさつをした。 (いんぐ) (いんぐ) (いんぐ)
・あんげんに気をつけることができた。 (いんぐ) (いんぐ) (いんぐ)
(道のあるき方やおうだんぼ道のわり方)
・しぜんや町ではたらいている人を見つけることができた。 (いんぐ) (いんぐ) (いんぐ)

1学年よりも地域を広げた学区探検で、A児は、働いている人を見付けるだけでなく、公共施設である公民館では、どんな仕事をしているのか考えて表現した。児童の願いが記されており、学びに向かう様子が見られる。B児は、たくさんのお店をワークシートに書いていただけではなく、加良部方面と江弁須方面での店の数について気が付いたことをまとめた。C児は、大通りで交通量の多い江弁須方面を探検した時に、横断歩道の渡り方や安全面について気が付き、自分自身の行動を振り返ってまとめ、表現することができた。

7 アンケート結果及び考察

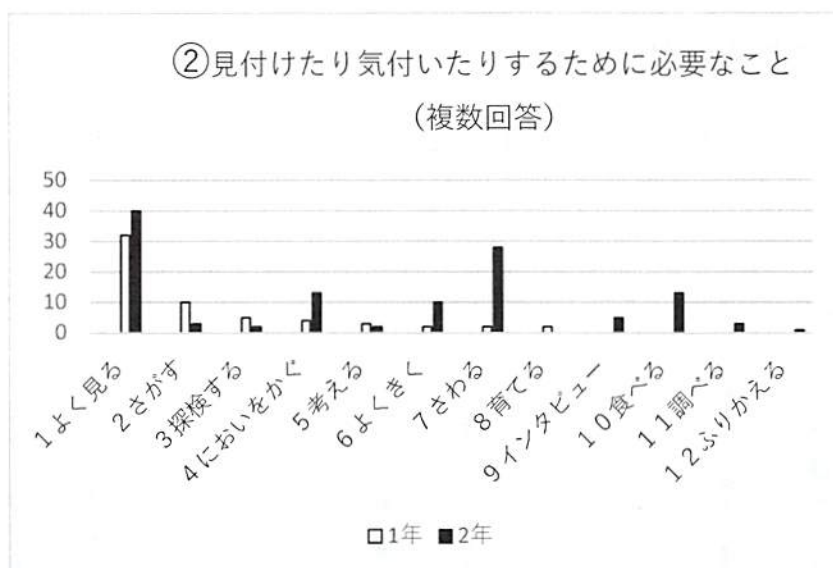
第1学年（75名） 第2学年（69名） 7月実施



(1) どんな活動が好きか

1学年では、「発表する」「友達と活動する」「秘密を見付ける」と回答した児童が56%と半数に上った。さらに、半数近くの48%の児童が「発表する」や「本で調べる」などの活動が好きと回答した。その理由として、「発表が楽しい」「発表を聞くのが楽しい」と発表の楽しさを挙げている児童が多く見られた。自分が発表して相手に聞いてもらうことや、友達の発表を聞くことを通して、発見や気づきにつながることを実感できたからだと考えられる。

一方、2学年では、1学年と同様に「友達と活動する」「秘密を見付ける」「発表を聞く」ことに対して好意的な回答が多くを占めた。特に、78%の児童が「友達と活動する」ことに好意的な回答をした。その理由として、道カードや探検後に行った地図にまとめる学習で、グループで友達と活動したことが結果に反映したと考えられる。さらに、「秘密を知りたい」という回答から、友達と学習することで学びへの意欲を高めことができると実感した児童が増えたと考えられる。

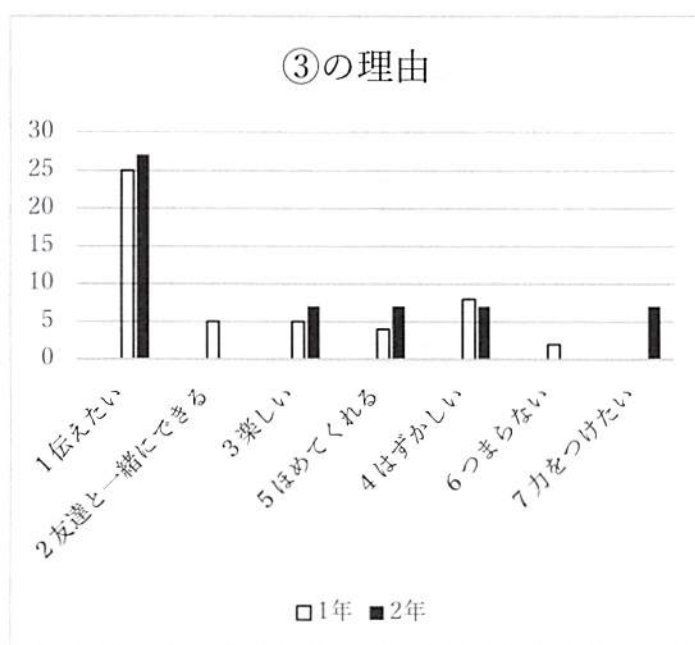
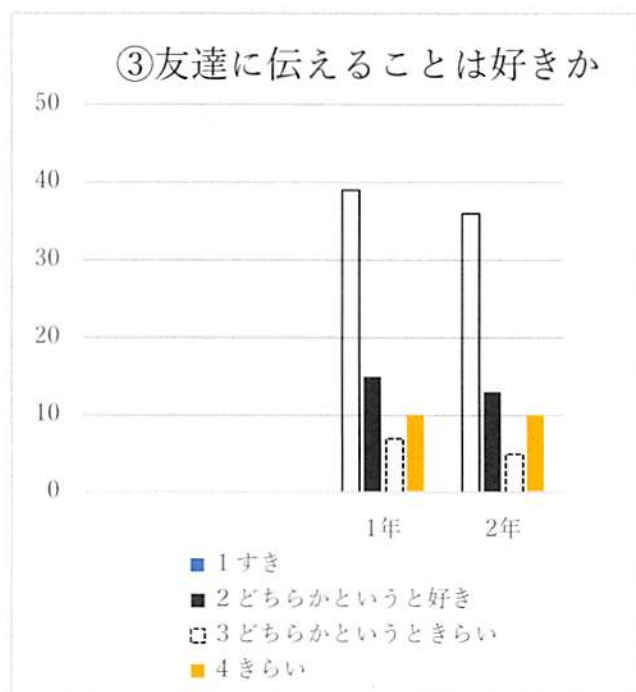


(2) 見付けたり気付いたりするために必要なこと

1学年では、「よく見る」や「探す」といった視覚が、気付く時に必要だと回答している児童が半数以上であった。

一方、2学年になると、視覚以外の「聞く」「触る」「嗅ぐ」といった諸感覚を用いて気付くことが必要であると回答した児童が多かった。その理由として、友達の発表から、自分の見付けたものとの違いを理解することで、気付きの質が高まったことが要因として考えられる。また、野菜の栽培で、葉や茎、実などを触って観察したりにおいを嗅いだりするなどの学習を通して、「見る」だけでなく、諸感覚を使って気付くことの大切さを感じ取ることができたのではないかと考えられる。

アンケート結果から、児童が「よく見る」ことが必要だと感じていることから、見付けたことを視覚化させ、相手に表現する力を高める効果的な手立てが必要である。

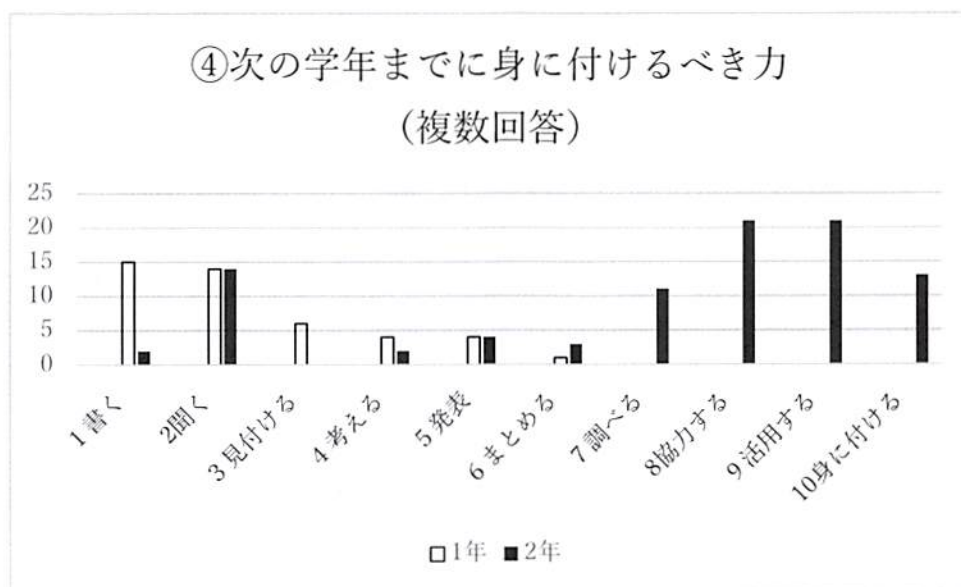


(3) 伝える活動

伝える活動を好意的に感じている1学年が多かった。「好き」「どちらかというが好き」と回答した児童は、合わせて72%を占めた。自分の思いを伝えたいという気持ちが強く、結果に反映されたのではないかと考えられる。「友達と一緒に活動できる」という理由から、友達と活動することに楽しさを見出すことができたと考えられる。一方で、伝えることが「恥ずかしい」と回答している児童も見られた。

2学年では、71%の児童が「好き」「どちらかというが好き」と解答した。1学年と同様に「伝えたい」という児童が多く見られた。それ以外に「褒めてくれる」と称賛された経験が成功体験とつながっていることが結果から分かる。

半面、伝える活動において「恥ずかしい」と回答した児童もあり、伝える活動においての工夫や改善が必要だと感じる。



(4) 次の学年で必要だと思うこと

1学年の回答では、「書く」「聞く」「見付ける」という基礎的な力を挙げた児童が46%見られた。さらに、「考える」「発表する」などの力が必要だと感じた児童も少数見られた。

2学年では、1学年と同様、「聞く」「見付ける」と回答した児童が見られた。一方で、「協力すること」「活用すること」「調べること」も、次学年においても必要な力であると認識している児童がいた。一人一人の活動だけでなく、グループでの活動や、グループの活動を全体に発表するなど、学習形態が大きく関わっているからだと考えられる。

また、学年が上がることによって、グループでの活動が活発的に進められたことやグループで協力して学習をすることが必要だと感じられた結果だと思う。

7 成果 (○) と課題 (●)

<仮説 1>

対象との関わらせ方を工夫すれば、学習や活動の充実感を味わい、自ら学びに向かう児童が育つだろう。

- 児童にとって身近にある公園や通学路を対象として、実際に探検で見付けたり、体験したりすることを通して、活動の充実感を味わうことにつながった。
- 出会わせた対象（人的、物的）を児童の興味や発達段階に応じて変えたことや、繰り返し関わる活動を通して、充実感を味わうことができた。
- 児童の「こうしてみたい。」という思いや願いを受け止め、意向に沿うような学習を進めたことで児童が満足感を得ることができた。また、児童自ら工夫して学習を進める児童が増えた。
- 個人、グループ、学級全体と少人数から大人数へ段階的に学習形態を変えたことで、新たな気づきに導き、友達との学習する喜びや、満足感につなげることができた。
- 児童一人一人が自らの課題を見付けたり、自分の学びに向かっていく児童を育てたりすることに課題が残る。
- 自らの学びに向かわせるためには、児童の実態に適した学びが進むように学習環境とカリキュラム・マネジメントの双方から計画および改善していく必要がある。

<仮説 2>

学びをつなげ、伝え合う場や振り返る場を工夫すれば、気づきの質が高まり、自分の思いや願いを表現できる児童が育つだろう。

- 学年間、教科間、単元間の学びがつながる手立てを組んだことで、学習のつながりや児童へ身に付けさせる学習内容が明確になり有効的だった。
- 伝え合う段階において、個人、グループ、学級全体と学習形態を変えながら行ったことで、新たな気づきにつながった。また、自分の成長について気づきを深めた児童が増えた。
- 友達同士の伝え合いだけでなく、保護者からも意見をもらうことで、自分たちができるようになったことに対して振り返ることができた。
- 振り返りの学習において、自分自身の振り返りだけでなく、友達と共有したことによって、自分ができるようになったことや、気づきの質を高めることにつながった。
- 付箋紙を多く活用したが、児童の実態に応じて思考ツールを増やしていくことで、思考する力を伸ばし、さらに思考したものを相手に表現できる力を付けることが必要である。
- 自分の思いや願いを表現できるようにするために、相手に伝える力や、表現する方法などの力を付けることに課題がある。